



ふたなり シスターの ミルクは美味



R-18
成人向け

「本日よりこの地を
担当することになりました♡
皆々様、今後ともどうぞ
よろしくお願いいたします♡」

この地における
シスターの役割は
栄養価の高い
ふたなりミルクの供出で
貧しい人々の栄養を
補うことにある

(まだ1×歳らしい)
(若すぎるな)

(玉も竿も申し分ないが)
(ちゃんと精は出るのか)
(未成熟では困るぞ)
(どれ、ひとつ確かめてみるか)

たふん♡

どぱっ♡

果たして
信心薄い村の男どもが
娘の玉を揉み込んでみれば
ツンと鼻を突く、
花の青い香りが広がり

白い竿より
なお白い精汁が
どぷりと溢れ出した

たぷっ♡

たぷん♡

もみっ♡

「「ひえっ滅相もございません！」
神に仕える修道女の精を
無為に搾る愚かさ気付き
畏れ戦慄いた男たちは深く懺悔し、
以降、娘を疑うことは無かった。

「んんっ…♡
…まだ、試されますか？」
(すっ、すごい量だ…)
(この娘は…本物だ…!)

シスターは
色白の処女包茎を振り
男たちを惹きつけた
発情した犬の尻尾のように…

「今日は休息日ですから…
御馳走をお持ちしました♡」



それは乙女の
包皮いっぱいに
詰まったチーズ

おわっ♡



男たちは
夢中で食べる



にちゃあ…♡

むわっ♡

「ふたなり娘の尼粕(あまかす)
ふたなりミルクの沈殿物で
非常に栄養価が高い
食料不足に悩まされる中世では
大変貴重な食料である」

♡むわあ♡

「あっ…♡
皆さん落ち着いて…♡
まるでママのおっぱいを
欲しいがるワンちゃんたち
みたいですよ♡」



村の男たちは
シスターの虜になった。

ピュルッ♡

ひゅっ♡
ゆっ♡

彼女の精は
あまりに美味だった

仕事が終われば
日がな一日
赤ん坊のように
娘の肉竿をむさぼり

腹が膨れるほど
精液を飲んで
眠りにつく

ひゅっ♡
ひゅっ♡
びゅっ♡

ぐしゅっ♡
ぐしゅっ♡

娘もまた
男たちに応えた

自身の精を求める
男たちの姿が
とても可愛らしく
思えたのだ

その心の在り様は
神の愛に近しいと
自惚れ掛けて
眩暈を覚えた

トロ♡

れっ

精子の出し過ぎで
精巣がしぼみ
陰囊にシワが入ると
娘は男たちに舐めさせた

れっ

っ

「かわいい
ワンちゃんたち♡
金玉ペろペろして
牝精子を産むの
手伝って…♡」

「ご褒美にお腹いっぱい
おちんちん母乳を飲ませて
あげまちゆからね♡」

みちっ

陰囊が腫れたように
膨れ上がる
精巣に精子が満たされ
射精以外考えられなくなる

「はへっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」

「へっ♡」



どちや

交尾が始まれば
膣がめくれるほど
激しく交わる

牝金玉の皮脂を
雄金玉と肉竿に
こすり付けて
フェロモン漬け
大量射精と
着床を促す

どちや
どちや

どちや

どちや

どちや

雄の射精を子宮で受けると
牝の精液をまき散らして
相手の体に塗りたい
マーキングを施す

ふたなり獣臭により
他のメスは本能的に
近づかなくなる...

どちや

どちや

どちや

シスター赴任から
二か月足らず

村の男たちは
一人残らず
彼女のつがい
となっていた

どちや

どちや

どちや

どちや

彼女は村の担当を外され
所属していた修道院も
追放となってしまうた

現在は人里離れた地で
人知れず
静かな日々を
暮らしている
自分が産んだ
子供たちと
共に……

お

ぷん♡

ずしっ♡

だぶっ♡

むん♡

元より豊満だった
肉竿と金玉は
成熟して陰毛が茂り
精汁の栄養と味は
ますます高まり
その味を求め
彼女の行方を
追い求める者も
いるという……

おっぱいミルクをベースに
精液ミルクをたっぷり混ぜて
精液甘粕チーズをトッピング

贅沢ふたなり精液
ミルクシチュウ!!です♡

うちの子たち
これが一番
喜ぶんです♡

目の前で作るのは
まだちよつと
恥ずかしいんですけど…

旅の方もいかがですか？
え、おいしい？
よかったあ…♡

食べたら体が火照って
きた…ですか？

ふふっ♡

それでは子供たちを
寝かしつけた後で…ね♡

だぶん♡

■初版 2022年8月14日
■2刷 2022年8月19日
■発行 エブ屋(メッシー)
■印刷 SUN GROUP

presented by

エフ屋

玉付きふたなり娘工房